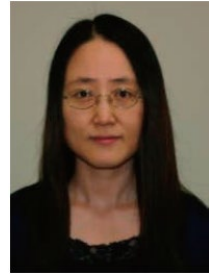


研究タイトル:

理工学系学生のための英語テキストの開発



氏名: 朴 槿英 / PAK Keunyoung E-mail: pkylove@sendai-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 修士(国際文化)

所属学会・協会: JACET, 日本国際文化学会

研究分野: 英語教育

キーワード: ①ESP(English for Specific Purposes)②英語テキスト③国際交流

技術相談
提供可能技術:
・理工学系英語及び TOEIC 受験学習に対するアドバイス
・ビジネス英会話・韓国語会話の学習に関する情報
・国際ビジネス及び技術協力に関する情報

研究内容:

研究課題

- 理工学系学生に求められる英語力を習得するのに適した ESP 教材開発のあり方
- 理工学系学生に英語プレゼンテーションを支援する英語テキスト及び教授法
- 国際社会における文化交差の事例研究

研究シーズ

●理工学系学生のための ESP 教材開発のあり方

大学理工学系学生に特化し、理工学系の学生に求められる英語力を習得するのに適した ESP 教材開発のあり方を研究し、それに基づいて理工学的プレゼンテーションを英語で可能にするテキストの開発を行っている。

1. 理工学系学生に対する英語プレゼンテーションの学習効果の向上のため、学生のプレゼンテーション原稿の修正に掛かる手間を最低限に軽減しながら学生各自のレベルに沿った指導が期待できる「プレゼンテーション・テンプレート」を開発した。

2. 理工学系学生に必要な工学・科学系英語のミニマム・エッセンスを抽出するために、英語を母語としない若手研究者の発表が主流となる国際学会(「International Conference of Advances in Metallurgical Processes and Materials」など)で理工学系の研究発表に頻出する語句や表現を収集した。

3. 教材開発のあり方のシステム化を検討するため、および科学・工学分野の語彙調査の一環として、語彙を比較的制限した科学系テキストのモジュールの一形態を開発した。また、それを授業で使用し、評価・改善を行った。

4. 英語を母語としない学生が大学入学と共に全課程を英語で受講するインドにおいて、理工学系学生に使用されている専門分野関連のテキストを分析した結果、そのテキストは主に科学実験方法及び結果を報告する形で構成されており、学生は授業で行った実験の報告書を作成しながら、自然と英語が身に付いている傾向にあることが判明した。同じやり方の授業を日本人学生に行い、ESP 学習に効果的であることがわかった。

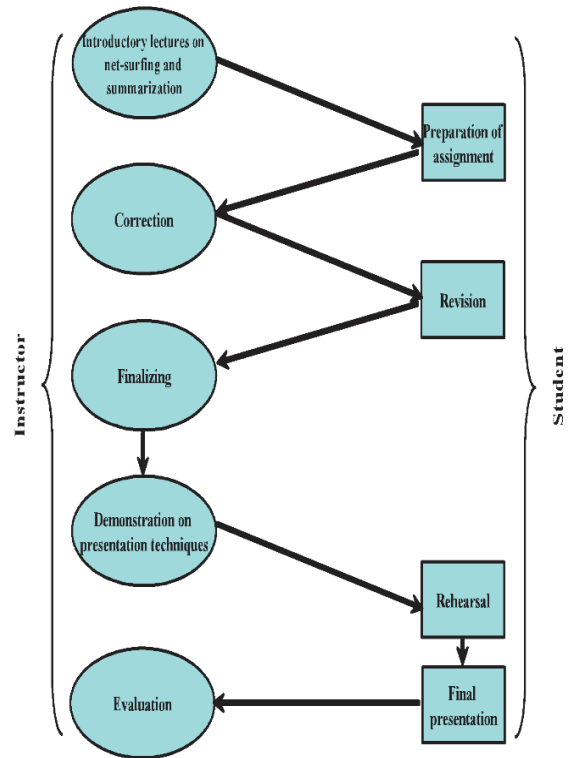


Figure 1. Sequence of procedures and student-instructor mandatory domains

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	